



■最近の話題

「土地改良の仕事の魅力 PR 動画」を制作しました

青森県では、近年、建設会社や測量設計コンサルタント及び行政等の分野で、農村地域の維持に不可欠な土地改良を支える“人財”の不足が課題となっています。そこで、人財確保に向けた取組の一環として、県重点事業「土地改良人財確保推進事業（R3～R4）」を活用し、農業土木を学ぶ大学生・高校生に向けて、本県土地改良の魅力を発信するためのPR動画を制作しました。

今回制作した動画は、公務員・測量設計コンサルタント・建設業の3つの職種別としました。公務員編では、上北地域県民局の古木名さんが、公務員（技術職）の仕事内容や県職員を選んだ理由、仕事とプライベートの両立等について説明しているほか、測量設計コンサルタント編では、常磐測量設計の工藤さんが、仕事の達成感や資格取得等について、建設業編では、齋勝建設の奈良さんが、現場代理人の仕事や職場の雰囲気等について説明しています。

本動画は、本県土地改良の仕事の意義・やりがい等の魅力が満載の内容となっています。視聴した大学生等が土地改良分野に進むきっかけとなれば幸いです。

なお、制作した動画は県庁ホームページやYoutubeで公開していますので、ぜひご覧ください。
(県庁HP：<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/tochikairyo-PRdoug.html>)



3編をまとめたダイジェスト編の一部

環境公共学会が農業農村整備事業広報大賞「優秀賞」を受賞しました

令和4年4月27日、全国農村振興技術連盟主催による「令和3年度農業農村整備事業広報大賞」表彰式が農業土木会館（東京都）で行われました。

この賞は、農業農村整備事業に係る広報活動の面で特に顕著な功績のあった団体を表彰するもので、全国の応募から、広報大賞2点、優秀賞8点等が選ばれました。県内からは、環境公共学会（事務局：水土里ネット青森）の「あおもりの農山村フォトコンテスト」の取組が「優秀賞」を受賞しました。

この取組は、農山村等の魅力とそれを守り育てていくことの重要性を県民の皆様に再認識していただくことを目的に、毎年度実施しているものです。今後も青森県として支援し、環境公共学会とともに取組を進めていきたいと考えています。



表彰式の様子（右：環境公共学会 油川会長）

■「環境公共」事例紹介

大川原地区棚田地域振興協議会の取組

1 概要

令和3年4月、黒石市大川原地区の棚田約32haが県内初となる国の「指定棚田地域」の認定を受けました。このことを契機に、棚田地域の振興活動に参画する方々により「大川原地区棚田地域振興協議会」が設立され、棚田の保全・管理とともに、棚田を地域資源として位置付け、地域振興を図る取組が本格的に開始されました。

また、国では棚田地域振興に関する取組を積極的に評価し、棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能に対するより一層の理解を得ることを目的として優良な棚田を「つなぐ棚田遺産」として認定しており、令和4年2月、本地区の棚田が本県で唯一認定されました。



棚田地域振興協議会の様子



「つなぐ棚田遺産認定式」の様子

2 取組内容

令和3年度は、耕作放棄地の新たな発生を防止するため、牡丹そばの作付や新たに化学肥料や農薬を使用しない栽培方法による水稻の作付が行われました。収穫された米は「大川原棚田米」として、黒石市内で行われた地産地消フェアで販売されたほか、北海道の輸出業者を通じて香港に輸出され、好評を得ているところです。

そのほか、中山間地域等直接支払交付金を活用して、本地区の交通の利便性向上を目的に、12月から3月までの間、地域住民を対象とした地域内交通（タクシー運行）の取組も行われています。



「大川原棚田米」の販売の様子

3 今後の展望

本協議会では、引き続き、同交付金などを活用した棚田地域の農業生産活動や、新たに棚田基金を活用して棚田の案内看板の設置などを行うとともに、棚田を核とした地域振興対策に積極的に取り組み、環境公共の目標のひとつである「農林水産業が支える自然・景観・文化の保全・継承」を推進していくこととしています。



大川原地区の棚田